



お知らせ

(1) 核データ部会

第 24 回核データ部会全体会合報告

第 24 回核データ部会全体会合

日時: 2011 年 9 月 22 日 (木) 12:00~13:00

場所: 西日本総合展示場新館 304 講義室 (J 会場)

石橋部会長より、開会の挨拶がなされた。以下、深堀副部会長の議事進行のもとに、会合が進められた。



写真 1 核データ部会全体会合での様子 石橋部会長挨拶 (左)、会場の様子 (右)

1. 部会表彰

深堀副部会長より、核データ部会賞の学術賞 1 件、奨励賞 2 件の計 3 件が選考されたことが報告され、それぞれの研究代表者へ表彰状と副賞が贈呈された。

学術賞：1 件

“全 MOX・BWR 炉心シミュレーション実験 FUBILA の中性子工学解析”

FUBILA 計画 MOX 炉物理試験チーム；

山本 徹、酒井 友宏、安藤 良平 (独立行政法人原子力安全基盤機構)

桜田 光一、菊池 茂人、馬野 琢也 (株式会社東芝)

奨励賞：2件

“高エネルギー中性子入射による軽荷電粒子生成反応二重微分断面積の研究”

平山 嵩祐 (株)日立製作所 日立研究所 エネルギー・環境研究センター)

“keV 領域の U-235 捕獲断面積の問題解明のためのウラン燃料”

ナトリウムボイド反応度測定 FCA 実験及び解析

福島 昌宏 ((独) 日本原子力研究開発機構)



写真2 部会賞表彰 (左から) 学術賞：山本徹氏、奨励賞：平山嵩祐氏、福島昌宏氏

2. 報告事項

2.1 企画担当

企画担当の須山委員より、部会等運営委員会のWGメンバーに第2分野からは加速器・ビーム科学部会の林崎委員が選任されたこと、学会の透明性を受けて活動を世間に公開するために内規等について内容を整理し、他部会との統一を図って見直しを行う。見直した結果を、学会事務局へ報告する必要があること、学会の予算の赤字の問題が報告された。

学会として、今後、大学とか費用の発生しない開催場所を検討していくこと、今後の学会開催場所のスケジュールについて、2012年春 福井大、2012年秋 広島大、2013年春 近畿大、2013年秋 八戸工大、2014年春 都市大までは確定していることが報告された。2014年秋 北海道支部へはまだ未依頼とのこと。

今後の開催循環は、

中部	2012年春	福井大
中国・四国	2012年秋	広島大
関西	2013年春	近畿大

東北	2013 年秋	八戸工大
関東・甲信越	2014 年春	東京都市大
北海道	2014 年秋	
北関東	2015 年春	
九州	2015 年秋	
中部	2016 年春	
中国・四国	2016 年秋	
関西	2017 年春	
東北	2017 年秋	

です。

企画担当の横山委員の代理として、深堀副部長より、核データ利用者支援小委員会（核データなんでも相談室）についての報告がなされた。今までに 10 件の質問、要望を受け、それらについて対応は完了している。質問を受けてから、およそ 1～2 日で、回答を返信している、最終的に、部会 HP にて質問内容と回答の Summary を載せることが報告された。

後日、核データ部会 HP の下記のアドレスに、質問と回答が掲載されました。

<http://www.ndc.jaea.go.jp/ndd/helpdeskqa.html>

企画担当の堀委員より、2011 年 5 月 25 日に開催された日韓合同企画セッションについて、日本から 5 件（核データ部会からは 2 件、炉物理 3 件）、韓国から 5 件の発表が行われた。また、炉物理部会からは一般セッションへの発表が 2 件あった。

次回の日韓合同セッションは 2013 年 3 月の日本原子力学会において開催される予定である。

企画担当の堀委員より、来年の第 6 回日韓サマースクール（4 部会合同：加速器・ビーム科学、核データ、放射線工学、炉物理）についてサマースクールの企画案について報告があった。

開催予定日：平成 24 年 8 月 27 日（月）～30 日（木）

開催場所：京都大学原子炉実験所（大阪府泉南郡熊取町）

参加人数：約 80 名

例年だと学生 60 人を受け入れているが、京大原子炉実験所の宿泊所の収容人員のために案では学生参加予定人数 40 人としている。しかし、この点は検討していくとのこと。

講義内容：福島事故に関係した「特別講義」、また「実験実習」の案が報告された。

「特別講義」：福島第一原子力発電所事故を受けて、事故の科学的分析、放射性物質の環境影響、今後のエネルギーシナリオ等について講義を企画する。

「講義」：4部会より各部会あたり3テーマ程度をセレクトして講義を行う。

「実験実習」：京都大学原子炉実験所で保有する各種設備を用いた実験の実施を検討中とのこと。

また石橋部会長より国際協力推進費として学会へ80万円の補助を申請する旨、補足があった。

2.2 編集担当

編集担当の執行委員より、web siteの改定やNDD Newsletterの発行実績が報告された。

Website更新について

- ・核データの教科書的な記事
- ・核データ何でも相談室にこれまでに寄せられた質問とその回答
- ・デザインの若干の変更

NDD Newsletter 発行報告

前回の全体会議から今回の総会（2011年4月～9月）までに、以下のニュースレターを発行しました。

2011年第3号（通巻第125号）2011年4月19日発行

2011年春の年会核データ部会全体会議資料

2011年第4号（通巻第126号）2011年4月19日発行

2011年春の年会核データ部会全体会議資料（訂正版）

2011年第5号（通巻第127号）2011年6月20日発行

第12回放射線遮蔽国際会議（ICRS-12&RPSD-2012）のご案内

2011年第6号（通巻第128号）2011年6月21日発行

核データの教科書的な記事

2011年第7号（通巻第129号）2011年8月24日発行

南相馬での放射線出前授業

核データニュース編集委員会の編集担当の中村委員より、核データニュースの発行実績、および次号の発行予定について報告があった。

2011年第98号（通巻第134号）2011年2月25日発行

2011 年第 99号（通巻第 135 号） 2011 年 6 月 10 日発行
2011 年第 100 号（通巻第 136 号） 2011 年 10 月発行予定

また、深堀副部長よりニュース 100 号に際して何か記念号みたいな特集をとのコメントに対して検討することにした。関連して、2013 年はシグマ委員会 50 周年とのことで、来年あたりから何を行うか検討し始めるとのことである。

2.3 会計担当

会計担当の松岡委員より、平成 23 年度の予算案が報告された。

2.4 その他

核データ研究会実行委員会 小浦委員より、2010 年核データ研究会の Proceedings が完成したとの報告がなされた。深堀副部長が Proceedings 完成のアナウンスを、メーリングリストにて周知することを小浦委員に依頼された。

全体会議後（9 月 28 日）に、小浦委員より Proceedings 刊行のお知らせが配信されました。

核データ研究会実行委員長の前田委員の代理で中村委員より、核データ研究会の開催日時、場所、セッションの報告が行われた。特に、ポスター発表について、学生の参加が今のところないことを懸念し、研究会として旅費の補助の用意があるので、学生の参加を検討してもらうよう特に大学先生方へお願いがあった。

3. 審議事項

須山委員より、2012 年春の年会における企画セッションの提案の依頼があり、企画案を議論し、10 月 14 日締切りで部会メーリングリストにて案を提出することになった。

石橋部長より、学会の開催場所について、北海道、中国・四国、九州地区だと、開催場所の大学が一意的に決まってしまうため、この点と持ち回る頻度も含めて、文書にて学会へ検討をお願いすることとした。

深堀副部長より、来年春からの運営委員会の改選に関連して、核データ研究会実行委員長が運営委員会に入っていないために情報連絡がうまくいかない面があり、実行委員長と副委員長の二人を委員会へ入れて、交替で行ってはどうかとの提案があり、検討することとした。

以上
編集担当 中村詔司